

第 2 回加賀市再生プロジェクト検討会議事録(要約版)

1 開会

検討会開催にあたり、岡田政策企画部長からあいさつした。

2-(1) 再生プロジェクト検討会の進め方の見直しについて

本検討会の進め方について、当初からの変更点を説明し、委員からの承諾を得た。(資料 1 及び資料 2)

2-(2)-1 施策項目の検討について

事務局から、市長公約の 32 項目を検討するための資料として、今回検討する項目を総括したリスト及び各項目に基づく想定事業の担当課が作成した検討調書を提供し、これを基に施策項目について委員から御意見をいただきたい旨を説明した(資料 3 及び資料 4)

【委員】

- 検討会をより良いものにしていくために、「会議をやって意見を出しました」で終わるのではなく、この検討会において「自分の意見がどれだけ反映されたか」「議論がどれだけ深まったか」「市民の生の声がどれだけ政策に反映されたか」などの、検討会自体の達成度合いについて、各回ごとに委員にアンケートを取り、KPI のような評価軸を作り可視化すべき。

【事務局】

- 基本的には、各項目について検討会で出た意見を最終的に答申という形でまとめ、それを踏まえて市の予算や施策に反映していく予定だが、予算や事業を進めるにあたっては所管の審議会等でのチェックも必要。その詳しい手法や、検討会での意見をどのように反映していくかということは、検討させていただきたい。

2-(2)-2 各項目の個別審議

※以下は、原則、項目番号順に整理しており、発言の順番とは異なる。

① スピーディーに声が届く、かわりやすい身近な政治

No.1:毎月のタウンミーティング(検討調書番号:1 番)

※参考として、第 1 回タウンミーティングで出た意見を集約し、提供(資料 5)

【委員】

- 加賀市をよりよくするために考えたアイデアや企画を、参加者がプレゼンして市に提案できるような時間を設けてほしい。
- タウンミーティングという形式での対話だけでなく、各種団体(女性団体、子育て関係団

体など)と市(市長)が直接話す場を継続し、二本立てで進めるべき。

- タウンミーティング一つで背景や意見の異なる市民や団体の声すべてを聞いてしまうと、目的がブレてしまう危険性があるので、あくまでもその場は様々な意見を振り分けをする場所として提供して、そこを起点にして分野や事業者ごとの分科会を作っていけばよいのでは。

【三浦会長】

- 市民がたくさん集まれば、それだけ様々な意見が出るためなかなか收拾がつかず、どういったところにフォーカスするのか、どんなことをテーマにするのかということがぼやけてしまう。
- 分科会を設置するというのも一つの手だが、どのような形にしていくかなどの課題もあり、いずれにせよ意見の収集などの積み重ねが必要

【検討会としての評価】 A:推進すべき(効果が高く、即実施可能)

No.2:デジタル目安箱の設置(検討調書番号:2番)

※参考として、令和7年11月25日(設置開始日)から、令和8年1月26日までの間に届いた意見を集約・要約し、提供(資料6)

【委員】

- デジタル目安箱は広く市民の意見を聞き、その中で必要な意見を見極めることとし、タウンミーティングでは分科会などを作ってテーマを絞って議論を進めていくという整理で、役割を分けられる。
 - タウンミーティングは市長が前に立ち参加者の意見を拾っているというイメージだが、デジタル目安箱の場合は市民が市からの返答を期待して投稿し、それに対して市が返答しているという形でタウンミーティングと差別化していると考えてよいか。
- ⇒事務局回答:1月末までは、投稿フォームに「返信を希望する」という項目をつけていたが、本来は各担当課や主管窓口にお問い合わせしてほしい個人的な相談や問い合わせなどが多く寄せられ、市政への提案などがなかなか見られなかったため、現在は基本的に返答をしない運用に切り替えている。
- どのような分野に関する意見がどれくらい集まったのか、市に対する不満がどれくらい出ているかなどを集計したグラフを作り、市の公式LINEなどを用いて集計結果を公表したり、特に割合が高かった分野についての情報を発信したりするほか、テーマを設定した意見の収集、意見・データが不足する場合や偏りがある場合にそれを補う意見・データの収集などの工夫をすると、目安箱を設置した意義が高まる。
 - 寄せられた意見をHPに公開するなどして、自分以外の市民の方がどのような意見を持っているのかを常に確認できる場を設けていただき、意見の総数や改善の実績なども見たい。

【三浦会長】

- 市民の方は、目安箱などの意見を受けた市のアウトカムを期待している。

- 意見がある程度集まった段階で分野ごとに区分して、市の施策に盛り込めるような内容であれば紹介し、さらに意見を膨らませていくというやり方も有効ではないか。
- 目安箱に投稿した人に対する返答がないと、すぐに飽きられてしまう可能性もあるので、時には市長が返信をすれば、意見を聞いてもらえているんだという信頼や、市民によるアウトプットと行政からのアウトカムという関係の構築にも繋がるのではないか。

[検討会としての評価] A:推進すべき(効果が高く、即実施可能)

No.3:市財政・予算の市民説明(透明化)(検討調書番号:3番)

【委員】

- タウンミーティングで財政のことを議題とする見通しはあるか。
⇒事務局回答：タウンミーティングは、今のところ市民の意見を聞く場所としているため、市の施策はなるべく出さないようにはしているが、市の状況は伝えなければ市民も分からないので、議題にあげることも検討はしている。
今のタウンミーティングのあり方をそのまま続けるというようなものではなく、変更等は必要ではあるので、委員の意見もぜひ反映していきたい。
- 歳出と歳入だけでは見えてこないような、費用対効果や貯金という部分についての関心が高まっているので、タウンミーティングなどで取り上げ、意見を吸い上げることを期待する。
- 市の会計で黒字化した部分の使い道などの方向性を市民の方に示せば、市民の関心であったり興味を引いていくことができるのではないか。
- 予算書の中に、タウンミーティングやデジタル目安箱にこういう意見があったのでこのように反映しましたという記載や項目があれば、自分たちの意見が反映されてるという見方が少しはできるのではないか。

【三浦会長】

- 予算書を、家計簿のような形で示す手法は多い。
- 市の財政が赤字ではなく黒字であると、目に見える形で示していくことが大事。

[検討会としての評価] A:推進すべき(効果が高く、即実施可能)

No.4:山中温泉プール・ぬくもり診療所の経緯調査・市民説明(検討調書番号:4番)

※今回は山中温泉プール(=ゆけむり健康村)についてのみ議題とした。

【委員】

- 建物の解体費用として約4億円とあるが、これはプールと診療所の解体費を合わせた金額か。
⇒事務局回答：山中温泉プール(=ゆけむり健康村)とぬくもり診療所は分けて考えていただきたい。ゆけむり健康村のみの額となる。
- 質問として、次の5点を挙げる。

- ① 「山中温泉プール」とは、ぬくもり診療所にある治療用のプールではなく、ゆけむり健康村にあるものという認識でよいか。
- ② ぬくもり診療所についての議論は、次回以降行われるのか。
- ③ 選挙時の市長の公約としては、これらの経緯説明をするという公約なのか、具体的な活用方法の転換ということも含めての公約なのか。
- ④ 経緯説明は当然すればよいが、その先の活用方法について、行政側の提案についての是非についても、この場で推進するかどうかを決めるという意味合いか。
- ⑤ 担当課の評価としてはBの条件付き推進ということだが、この項目について議論が終了したときにこの評価でよいということになると、Bの条件付き推進として進める方向になるのか。

⇒事務局回答：①・② ご指摘のと通りの認識で問題ない。

- ③ 公約としては、基本的には経緯の調査等説明をした上で市長が最終的に判断する、という認識。事業内容に関する記載については、既に議会質問等で出た意見や提案を受け、担当課の方で具体的な方法としてこういうことも考えたというものとなっている。
 - ④ 具体的な方針や行政からの提案についての是非を決めるということではなく、あくまで他の活用方法も含めてどうすべきなのか、アイデアを含めてご意見をいただきたい。最終的な判断は、議会の承認も当然必要になってくるので、市の当局と議会とで判断していくことになる。
 - ⑤ 担当課としては条件付き推進という評価だが、この検討会として、そのとおり進めるという判断をすることは必ずしも必要ではない。なかなか結論の出せるような類の話ではないので、この会としては、方向性の判断ではなく幅広い意見をいただいきたい。それを受けて市の方で最終的な判断をすることとなる。
- 検討会の一員としてこの場でこの施設に関する方向性を決定付けてしまうことは、自分一人では言えない。いろいろな意見を出してもらうことはよいと思うが、プロジェクトとして方向性を決めるのはいかがか。
 - かなり長い間、施設に関する結論が出ず、加えて入札の不調などもあったため、施設が廃屋のようになり、観光的な観点からも非常によろしくない。個人としては、どんな形であれ何とか早く解決をしてほしいと思っている。
 - 重大な問題であるため、この場で軽はずみにものを言えないと思う。
 - この件に関し、女性協議会で話し合いをしたところ、市民感覚・女性感覚の意見として、加賀市にあるたくさんのよいものを生かし、特色を出して、また旅館や観光協会とも協力して、加賀温泉郷が全国10位以内に選ばれるような温泉郷にしていただきたいという意見があった。
 - 防災広場にするという提案を市側が簡単に提示することはとても危険だと思ったが、各委員の意見や経緯を聞いて合点がいった。

【三浦会長】

- 市長のマニフェストでの公約としては、あくまでもいろんな意見を聞いた上で経緯を調査して今後どうするかを判断していきたいということなので、この場で事業推進の是非の判断はできず、KPIをつけることもできないと思う。
- 実際どういう方向性にするかということは加賀市全体の問題であり、様々な事情があるため、別の場においての議論で方向性を決定するべきものではないか。

【事務局】

- 施策項目は、内容の軽重にバラつきがあるため、事務局としてもそれを区別するというのはなかなか難しい。そのため、全てを一度まな板に載せさせていただきたい。
- 最終的な結論をこの場で求めるつもりはなく、最終的な判断は市の当局で決めることとなるので、ぜひ率直な市民感覚での意見や各団体ではこういう意見があったなどの提言をいただきたい。

【検討会としての評価】 評価を行わない。

③ 医療福祉・交通・防災の質を高める

No.28:大聖寺道路の早期開通(検討調書番号:5番)

【委員】

- そもそも県の事業で既に着工済みのものが、なぜこの場に議題としてあがってくるのか。いかに早く進めるかを県にお願いするかという段階の話なので、こういう仕分けに入ってくること自体が必要ないと思う。
- ⇒事務局回答：この場で議論するのはどうなのかという意見は最もだが、公約で掲げた施策項目について、そのまま提示している。
- 道路の対象となる大聖寺のエリアについて、文化的な魅力を通じて経済・産業を活性化できる合理性があるのであれば、早期開通を要求していく意味ができるのではないか。
 - この議題と併せて、広域観光ルートの創出の話題やデジタル目安箱・タウンミーティングを通じて観光客の受け入れ方法やどのような観光客に来てほしいかということを議論できれば、大きい話に繋がっていくのではないか。意味付けが重要。

【三浦会長】

- 道路が早期開通すること自体は望ましいが、既に県で着工している事業に対して市長から地元選出の県議会議員や県知事に働きかけをしていくというもの以外のものでもない。この検討会ではKPIを付けようがない。

【検討会としての評価】 評価を行わない。

No.29:福井県と連携した広域観光ルートの創出(検討調書番号:6番)

【委員】

- 市長が観光関係やそれを通じた経済効果に関してマニフェストで言及しているのは、強みである教育という分野からの乖離がある。専門学校等の設立といった教育の側面と地

域経済の側面に関連性が見られないと議論の余地が少ない。

- 観光都市を推進していく中で発生する人手不足や観光公害・オーバーツーリズム等の課題に対してどのように対応していくか、どのような受け入れ態勢をとるのかということは、この場ではなくタウンミーティングなどで話す余地がある。
- 施策の細かい部分まで見えてきたが、この場で話し合うべきではなく、より広域的な場での議論が必要
- 都会からの移住者の目線だと、北陸には都会にはない自然や秘境などの魅力があるので、その部分をアピールすることによって、インバウンドだけでなく都会からの移住者を引き込む施策をする必要があるかと思う。

【三浦会長】

- 具体的な話は連携事業の協議会のような場で行っているかと思う。

【検討会としての評価】 評価を行わない。

No.30:より安全な防災拠点の整備(検討調書番号:7番)

【委員】

- 備蓄品や非常用の資源を大量に購入するとフードロスなどの問題は避けられないが、単に購入して腐らすのではなく、消費・賞味期限の時期と合わせながら、社会福祉協議会やボランティア団体などと連携してその物資を防災・減災教育に活用したり観光客の避難を想定した運用を考えたりと、ソフト面での管理を整えたいという消費サイクルを上げるのがよいのではないかと。
- ハード面に対してどう予算を使うかというよりは、教育の側面も踏まえて、なぜ拠点の整備が必要なのかということ議論の方が建設的
- 市民にとって納得感のある事業のシナリオ、ストーリーが必要
- 次の項目 (No. 31:避難所トイレの全洋式化) を含め、学校の統合の問題や予算の関係もあるため、そのスピード感などの個別具体的な話まで議論するのは難しい。
- 想定される避難者数に対応していくという大まかな方向性は決まっているため、個別具体的な議論にまで踏み込む必要はない。
- 質問として、次の2点を挙げる。

① 想定される避難者数が2万4000人となる根拠を教えてください。

② この数字の中に観光客が含まれるのかどうか教えてください。

⇒事務局回答：① 数字自体は石川県が公表したものであり、それを基に危機対策課が対策を考えているが、数字の根拠に関しては事務局の方では把握していない。

② 観光客も含まれるという認識でよい。

- 災害に関する団体(女性防災ネットワーク、女性防火クラブなど)があるので、その団体からの意見も交えた方がよい。

【三浦会長】

- 検討会としては、非常食をこれだけ用意するというような意見よりも、教育という市長

の強みを発揮するのであれば、防災士や関係団体と協力して防災教育の場を整える、或いは防災士の資格を取る人に対して市が補助を行い防災に強い人材を各地域に置くなどの意見を提案していく方が望ましいのでは。

- 個別具体的な案件のため、検討会として KPI を決められない。

【事務局】

- 具体的な課題であるとか方向性を出すため事業に落とし込むというところで、詳細に逆振りしすぎたが、これを一つの材料として、ハード面はもちろん、ソフト面での充実において重要なことについても意見、視点を提示していただきたい。

[検討会としての評価] 評価を行わない。

No.31:避難所トイレの全洋式化(検討調書番号:8 番)

【委員】

- 防災に関係する人たちの意見を聞き、それを尊重したうえで検討すればよいのでは。

【三浦会長】

- トイレを洋式化しても、災害時に水が出なかったら使えるものではないので、捨てることのできるタイプのものがいいのではないか。
- いずれにしても、この場で議論して洋式・和式の是非を決めることではない。

[検討会としての評価] 評価を行わない。

No.32:空家解体促進・安全対策強化(検討調書番号:9 番・10 番)

【委員】

- 空家の対策については、空家等対策審議会で様々議論しているところであり、この場で検討できる事項であるかは疑問
- 今後の生き残り戦略に加賀市にヒト・モノ・カネを集めることが大事になってくる。戸建て空家をお試し入居として賃貸すれば、移住希望者と相性がよい。
- 空家をリフォームして固定資産税を発生させれば、市としてもプラス
- 国の交付金を利用して空家管理活用支援法人を指定し、市や不動産会社だけでは賄えない市民の身近な相談窓口として、官民が連携して対策に取り組んでいただきたい。
- この先々の観光や防災観光などの側面を踏まえると、空家はとても重要な資源となり得るので、単純に解体の推進だけではなく、取り壊し等が決まる手前の段階で何かしらの活用方法を民間や市民の意見を取り入れながら議論できる場ができればよいと思う。
- 民泊という形に関わらず、その地域の中で機能する“箱”として活用するというような形がとれると、非常に面白い議論ができるのではないか。

【三浦会長】

- 屋根が落ちてるような空家を再活用するのは難しいと思うが、町の中に部分的に一部の土地だけ空いてる状況はみっともないので、まだ使えそうなものについては、古民家や

民泊にしていくなど、有効な利用方法についても考えなければいけない。

- 総合的な加賀市のデザインとの兼ね合いもあるので、検討会で何か方針を導き出すということではなく、継続してやっていただくよう、市長にお願いしていただくということでのよいのではないか。

【検討会としての評価】 A:推進すべき(効果が高く、即実施可能)

3 その他の意見

【委員】

- タウンミーティングやデジタル目安箱で出た意見に対する市長の感想を聞きたい。
- 加賀市が締結している連携協定の一覧を出していただいて、それが営利企業に利用されていないか、無駄な支出に繋がっていないか等について精査してほしいという意見を言っているの、共有する。
- 進め方は今日のような流れでもよいかと思うが、それではおそらく全4回というスケジュールの限りで議論をするのが中々難しいと思うので、ある程度事務局で仕分けした上でご提示いただいた方が、より短時間で効率的に議論ができるのかなと感じた。

4 閉会

事務局からの事務連絡